



みゆきレター



信念をもって一步一步前進



晴れの卒業式を挙行するに当たり、ご来賓並びに保証人の皆様にご出席いただきましてありがとうございます。卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。また、大学院を修了される皆さん、専攻科を修了される皆さん、修了おめでとうございます。教職員、在学生を代表しまして、心からお祝い申し上げます。

卒業生、修了生の皆さんの今日の喜びは、本学に入學以来今日までの皆さんの努力の賜物であることは言うまでもありませんが、同時に、保証人の方々の暖かい支援のおかげです。保証人におかれましては、きびしい経済状況の中、ご子弟が卒業を迎えられて安堵されておられることでしょう。

卒業生の皆さんは、本学に入學してから四年間、大きく成長されたと思います。在学中、学修はもちろんのこと、サークル活動、ボランティア活動などに精一杯励まれました。その結果、多くの人が国家資格や教員免許状、専門分野の資格を取得されました。サークル活動においても、本年、本学のチームは、日本学生選手権水泳競技飛込競技において男子団体、女子団体ともに総合優勝を果たし、全日本バレーボール大学男子選手権大会で準優勝しました。このような目覚ましい成果の背景には、並々ならぬ努力があり、身に付けられた精神力は、将来必ず役に立つと確信いたします。

卒業生の皆さんの今日があるのは、保証人の方々の精神的そして経済的な支えがあつたことであり、地域社会の多くの方々との深いご理解の中で、先輩や学友たちとの深い交わり、

先生方の熱心な指導のお陰で、皆さんの豊かな人間性が培われました。皆さんは、このことをしっかりと肝に銘じ、感謝の気持ちを新たにしていただきたいと思います。

さて、ご存知のように、皆さんが大学に入學された前年の年に地球を飛び立った「はやぶさ2」は、4年以上かけて小惑星 Ryugu に到着し、今年の2月には着陸しました。4年間という時間は、長い時間なのですが、皆さんが過ごされた大学生活があつという間であつたように、何かを目標に努力しているときには、瞬く間に過ぎてしまいます。「はやぶさ2」のプロジェクトのように、時間をかけた一步一步の着実な歩みの中で、大きな目的の達成が可能です。

「はやぶさ2」は、宇宙という大海原を航海する日本の技術を駆使したロボットですが、皆さんも、今まさに社会人として社会という大海原に一步一步を踏み出そうとしています。それは、家族や大学から守られた学生という立場から、自ら道を切り開いて社会の一員として生きていくための第一歩です。また、これは人生の中で大きな節目のときでもあります。卒業生の皆さんのほとんどが、就職されると思います。就職するということは、社会の一員となることです。いままで置かれていた環境が大きく変わり、それに対応する必要があると思います。これは、自分自身を見つめ直すよい機会です。学生時代に築いてきたことを生かし、自分を再認識して、自信をもって新しい一步一步を踏み出していきたいと思います。

社会に出ると、大学で学んだ理想からかけ離れた状況に遭遇することが多々あり、臨機応変に対応することが求められます。新しい問題を解決すること、それは大変なことです。が、信念をもって粘り強く取り組んでください。そして、大事なことは良い人間関係を作ることです。組織の中で仕事をするということは、信頼関係を作り、決められたルールの中で共同作業をすることにほかなりません。

このように、皆さんの歩く道は、平坦な道だけではないと思います。険しい坂道があり、大きな壁が立ちはだかるかもしれません。大学で学んだことを基礎にして、常に新しい知識を吸収し、的確な判断力をもって、そのときの課題に対応できるよう精進していただきたいと思ひます。そして、目標に向かって一步一步、ときには半歩しか進めなくても自分自身のやり方で自信をもって前進してください。

最後に、皆さんの新しい人生の門出に、健康に注意され、福山平成大学の卒業生であることに誇りをもって社会のリーダーとして活躍されますよう祈念しまして、式辞といたします。

平成三十一年三月二十一日

福山平成大学

学長 坪井 始



実社会へ羽ばたいていく 皆さんへ

本日の平成30年度福山平成大学学位記授与式にあたりご挨拶申し上げます。卒業生・修了生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ご臨席の保証人の皆様にも心からお慶び申し上げます。また、ご多用中にも拘わらずご臨席を賜りましたご来賓の皆様に厚く御礼申し上げます。

卒業生・修了生の皆さんは、福山平成大学の教職員と師弟同窓の関係の下、在学期間中を有意義にお過ごしいただき、それぞれの目標に向かって日々精進され、本日を迎えたものと思います。卒業生・修了生の皆さんは、明日より実社会に羽ばたかれることとなりますが、現在の日本を取り巻く世界の社会情勢並びに経済情勢は、安全保障問題や自国優先主義が台頭し、大国間の貿易摩擦をはじめ、新興国不安の再燃が表面化するなど不透明感が漂っております。また、日本国内においては少子高齢化に見られる人口減少による生産年齢人口の減少問題・地域間格差の拡大、高齢化の進展による人生100年時代の到来等による社会構造・産業構造の変化への対応や気候変動によってもたらされる予想外の災害の発生など様々な問題が山積しております。卒業生・修了生の皆さんが、これらの諸問題を解決するためにも進展著しいAI・IoT・ビッグデータをはじめとする情報技術等を活用し、地域社会をはじめ日本並びに世界の持続的な成長・発展のため、本学で培われた知識・技術、取得された資格等を活用され、活躍されることを期待しております。卒業生・修了生の皆さん、学校法人福山大学を創設された宮地茂先生が福

山平成大学開学に当たって表明された、建学の精神と教育理念の一体化を表した「御幸五訓」には、

- (1) 真理を求め、道理の実践を志向する。
- (2) 豊かな品性と魅力ある個性を伸ばす。
- (3) 不屈の魂を養い、紐帯性を培う。
- (4) 生命を尊重し、自然を畏敬する心情を育む。
- (5) 誠実と倫を胸に刻み、夢の実現に挑む。

とあります。以上の教えを卒業後も胸に刻み、明日より実社会において、これまで以上に研鑽され、卒業生・修了生の皆さんそれぞれが、より良き未来の創造を目指し、揺るぎなく前進されることを心より願っております。願わくは、卒業後の皆さんが、本学で育んだ絆を大切にし、それぞれの地域で幅広い世代の同窓生との交流を重ねていただき、自らを発展させるための糧としてくださるようお願いいたします。そして、いつでも気軽にこのキャンパスに足を運び、恩師に元氣な顔を見せていただければと思います。本学在学中に得た恩師・学友との絆はこれからの人生において貴重な宝であり、これまで慈しみ育てていただいたご家族への感謝の気持ちとともに大切にしてください。本日は誠にありがとうございます。

平成三十一年三月二十一日

学校法人 福山大学

理事長 鈴木 省三

門出を祝して卒業生に贈る言葉

自信を持って社会へ

経営学部長 川久保 和雄



みなさん、ご卒業おめでとうございます。

今、新しいスタートラインに立ったみなさんは、将来に向けて希望に夢をふくらませているのではないのでしょうか。人生の一つの大きなターニングポイントを迎えて、4年間の楽しかった思い出や、苦しかった経験を、感慨深く振り返っていることでしょう。

新しいスタートにあたって重要なことは、将来の目標・計画を持つておくことです。今から10年後、20年後、30年後に、自分がどういう人間に成りたいのか、どういう人間になるべきかを、納得がいくまで十分考えてください。今までは、家族、友人、先生という、比較的限定された環境で、均質的な人間集団の中で過ごしてきましたが、社会に出るとあらゆる世代の、考え方の異なる人たちと広く触れ合うこととなります。周りを見回すと、きつと先輩や上司をはじめ多くの人たちの中に、深く尊敬できる人が見つかると思います。そういう人たちを目標にして、将来の自分を目ざして勉強を続けてください。若いころにどれだけ勉強したか、どれだけ努力したかによって、その後の人生が決まるといっても過言ではありません。

また、現在の社会は急激に変化しています。たとえばAI（人工知能）の急速な発達で、2045年にはAIが人間の知能を超えると言われている学者がいます。今後10～20年後には、現在の仕事・職業の47%がAIによって、ロボット・コンピューターに取って代わられるという予測をしている人もいます。車の自動運転は実用目前であり、将棋や囲碁ですでに、AIがプロ棋士に勝利を続けています。アニメやSF映画の中だけの存在であったロボットが現実社会に進出し、人間と共存していくのかもしれない。この人類が経験したことのない社会の到来を迎えるのも、時間の問題なのではないでしょうか。そのような社会では、あらかじめ正解が用意されている問題ではなく、予測が困難な問題に直面することも多いのではないかと思います。学生時代のように、教科書が決まっていた、授業で先生が教えてくれるということはありません。ぜひ大学で身につけた力を活用して、自信を持って正面から全力で取り組んで、問題を解決していきましょう。

私たち教職員一同はみなさんのことを、これからも心から応援しています。がんばってください！ 最後にみなさんの今後のご健康、ご多幸を心からお祈りします。

平成30年度卒業生に贈る言葉

福祉健康学部長 永井 純子



皆さん、御卒業おめでとうございます。福山平成大学での学生生活はいかがでしたか。新入生オリエンテーションに始まり、学長杯、御幸祭、それ以外に学科毎にもいろいろな行事がありましたね。学生食堂や図書館、体育館、コンピュータ室でも随分お世話になったのではないのでしょうか。授業はどうでしたか。積極的に取り組むことができたのか。卒業論文の作成ではこれまでにない苦しみを経験したのではないかと思います。

ペンシルバニア大学のダックワース博士は「成功者が持つ共通点はGrit（グリット）である。」と言っています。グリットとは、物事に対する情熱（集中力）であり、目的を達成するためにとつともなく長い時間、継続的に粘り強く最後までやり抜く力のことです。この2年間、先の見えない不安と苦しみにも耐えながら、根気強く頑張ってきたあなた。その苦しみこそが自分を成長させ、究極の能力といわれるグリットが身についたのではないのでしょうか。努力することで成功を経験し、成功することによって自分に自信を持つことができる人につなげてくれればと願っています。

しかし、人生はそううまくはいかないこともあると思います。トーマス・ヘンリー・ハックスレーは「若いうちに失敗することは実は非常に有益なことである。肝心なのはそれで潰れないことである。」と言っています。これから失敗を恐れず困難に立ち向かう勇気を持つて下さい。いかなる困難の中にもチャンスがあるはず。いろいろな人に助けてもらいながらで結構です。率先して状況を改善する行動を起こしましょう。また、教室を離れても学ぶことを続けて下さい。そして方向感覚を失わず、学ぶ意志や欲求を持ち続けて下さい。いつかきっと成功する日が来ると信じています。

これから社会に出ていく皆さんが気持ちよく働くためには、第一に時間やルール等、規則を守ること。第二にどうすれば良いか判断に困ったときは一人で判断せず、信頼できる人に相談して正しい価値判断をすること。第三に自分のことだけでなく、他者の気持ちを理解できるように行動すること。この3つを心がけて行動すればきっと道は開かれると思います。最後に、一生懸命頑張ると息苦しくなる時期があります。そんな時はいつでも大学に来て下さい。私たち教職員一同はいつでも皆さんの幸せを心から祈っています。

ご卒業おめでとうございます

看護学部長 木宮 高代



ご卒業おめでとうございます。晴れの門出を迎えられた看護学部看護学科9期生の皆さん、保証人の皆様からお祝い申し上げます。

現在の日本は少子高齢化が進み、超高齢化社会と言われる時代となり、多様化する保健・医療・福祉に対応できる看護職が求められ、その活躍の場は拡大し、看護職の役割拡大の推進などが行われています。本学看護学部の教育理念の基、皆さんは看護専門職に必要な学びを4年間修得してきました。初めの

一歩は小さいかも知れませんが、社会で仕事をしていく中で、情熱と努力で培った知識と技術を活かし、臨床での教育を継続し、後々の仕事の質や量などキャリア教育につなげて行ってください。これから、職場や人生のさまざまなシーンで課題にぶつかりたりすることもあるかも知れません。その時は、臨地実習などでもいつも励まし合ったり慰め合ったりした仲間がいること、思い出を共有できる大学という場がここに一つあることを思い出してほしいと思います。これから皆さんは未来に向けて、新しい土地で、新しい職場で、新しい経験、そして新しい同僚、先輩、職員の皆様との係わりが始まります。看護専門職としての自信と誇りを持って新たな目標に向かい、人と出会いなど歳を重ねていける皆さんの近況を聞かせていただける機会のあることを楽しみにしております。同じ看護専門職の仲間としてこれからの看護を語り合い、看護の質の向上に協働して行きたいと思います。また、皆さんが更なる学問を究めたい時なども、何時でも母校を訪ねてください。

大学は、これからも皆さんを応援し続けます。皆さんも大学を応援してください。地域における医療・保健そして福祉向上のために自分の力を信じ、未来の可能性に向け、活躍されることを願っております。また、助産学専攻科並びに大学院看護学研究科修了生の皆様、ご卒業おめでとうございます。助産師として、看護専門職のリーダーとして大いに活躍され、看護専門職の発展に寄与されることを期待すると共に、ご多幸をお祈りいたします。

大学生活を振り返って 四年間のメッセージ

四年間を振り返って

経営学科 多胡 美有紀



私は福山平成大学で過ごした四年間、多くの人々と出会い、充実した時間を過ごすことができました。

大学は高校までと違い、自主的に取り組む授業や研修が多く、例えば、授業の選択はもちろん、資格取得やインターンシップ、御幸祭などがあります。私も大学生活でいろんなことに取り組んできましたが、その中でも特に挑戦して良かったと感じたのは、海外研修です。私は同じゼミナールの学生と一緒にタイの研修に参加しました。私はこの研修で、他の大学の学生と交流し、異文化に触れることで自分の価値観が広がり、貴重な体験をすることができました。また、研修では積極的に発言することが社会に出てとても重要なスキルであることを学びました。

また、私はソフトテニス部にも所属していました。15年間ソフトテニスをしてきて、大学でのソフトテニスが一番楽しかったように思います。そう感じることはできたのは同級生のチームメイトに恵まれたからだと感じています。私は大学ではキャプテンを任せられ、今までキャプテンの経験がなかったため、とても不安でした。しかし、同級生の皆が支えてくれて、駄目なところは叱ってくれ、なんとかチームを勝利へ導くことができました。ソフトテニスをしていく中で、つらいことや苦しいこともありました。多くの大会で優勝することができ、これまで続けてきて良かったと心から思います。

この四年間、いろんなことに挑戦し、たくさんを経験してきました。支えてくれた友人や先生の方々、そして両親には感謝の気持ちでいっぱいです。これまでお世話になった方々に少しでも恩返しができるよう頑張っていこうと思います。

四年間の思い出

福祉学科 田川 みなみ



私は、4年間の大学生活でたくさんの人と出会い、多くの事を経験し学ぶことが出来ました。

入学した時から、介護福祉士と社会福祉士の2資格を取得したいという目標を持って勉学に取り組んできました。1年生の頃から学校での授業に加えて現場での実習があり、何も知らない私に出来るのかという不安がありましたが、少人数という福祉学科ならではの先生・先輩方との距離がとても支えになりました。

実際に経験することで、人対人という福祉職にはかせない、コミュニケーション力の大切さや、介護職のやりがいや大変さなど知ることが出来ました。また社会福祉士とのダブルライセンスを目指すことで、その分たくさん施設や病院などで実習を行い、色々な視点から専門職を見て学ぶことが出来ました。そして、4年生の冬、4年間の集大成として国家試験に臨みました。努力してきたという思いがあったからこそ、プレッシャーが重荷になったこともありましたが、そこで支えてくれたのも一緒に頑張ってきた仲間や、多くの事を教えてくださった先生や先輩方でした。たくさんの方の暖かさを感じて、福祉学科に入ってよかったと改めて感じています。

部活動では、小学校から行っているソフトテニスを続けることが出来ました。全国各地で行われるさまざまな大会に出場し、初めての経験をする事が出来ました。また高い目標を持って、取り組む仲間たちに囲まれて、とても刺激を受けながら過ごしました。あきらめずに目標に向かってひたすらひたむきに頑張る仲間の姿があったからこそ、私も頑張ろうと思つことができ、そういった環境が勉強への集中力にも繋がったと思います。この4年間の貴重な経験を生かして、社会人になっても色々なことに挑戦していきたいです。

夢に向かって

看護学科 金山 真実



「看護師になりたい」と心に決め入学したあの日から、四年が経ち卒業の日を迎えます。この気持ち強いものでしたが、大変なことも多く挫折そうになることもありましたが、仲間と支え合い、優しい先生方の下で、努力し続けることができた四年間でした。

四年間の中で多くの方々とうことが出来ました。吹奏楽部では、自分たちが行いたいと思った地域のお祭りでの演奏を、自分たちで実現することができました。また、ボランティア活動や中国へのサマーキャンプでは、他大学の友人と貴重な経験をすることができました。

看護を学んでいく中で、病院での臨地実習はとても印象に残っています。記録に追われ、患者様の病態の変容に追いつけず、知識不足を感じ苦しむこともありましたが、患者様により良い看護をしたい、患者様に合った看護をしたいという気持ち、個性のあるケアや指導につながりました。患者様の「ありがとう」がやりがいとなりました。

大学生活で一番大変だったのが四年生の一年間です。保健師の実習や就職活動、看護師と保健師の二つの国家試験の勉強など両立に悩みました。保健師の実習では、看護師の実習と違い、地域の人々を対象に、予防的視点で支援していることを学びました。この実習を通して、地域の方々と共に、健康なまちを一緒に創っていく保健師になりたいと思えました。看護師国家試験に向けて、「看ゴール100」という目標を掲げ、先生の愛情をたくさん受けながら、9期生全員で頑張ることができました。高め合うことのできる9期生と共に学べたことが、とても幸せです。

四年間の中で、悩むことも多かったですが、友人、実習グループ、保健師課程の仲間、9期生のみんな、先生方、家族に支えられ乗り越えることができました。春からは、地元で保健師として、今までの学びを活かしていきたいと思っています。四年間、本当に有難うございました。

大学生活のおもいで

こども学科 柏野 綾香



長いようで短かった大学生活も幕を閉じ、ついに卒業の日を迎えることになりました。ふと四年間を振り返ると、たくさん思い出があり、多くのことを学び、夢に向かって努力した日々だったと思います。

保育士は子どもたちの命を預かり、生活全般のお世話をしながら心身の発達を促し、社会性を養い、基本的な生活習慣を身につけさせるなど、子どもの成長にとって重要な役割を担っており、肉体的にも精神的にも負担の大きい職業です。しかし、たくさん子どもたちが日々成長していく姿を間近で見守り、子どもたちと関われる楽しさは、保育士の大きな魅力であり、非常にやりがいのある職業であると思っています。

私がこの四年間で最も印象に残っているのは四年次の保育実習です。この実習を経験するまで私はこども学科に在籍していても、「絶対に保育士にはならない」と決めていました。当時の私はまだ保育の知識も少なく未熟だったために、あこがれていた現場の理想と現実のギャップに耐え切れず半ばあきらめていました。そんな中での実習だったため最初こそあまり乗り気ではなかったのですが、今まで学んだ知識や経験を活かして子どもたちと関わる中で、心にも余裕ができ、次第に子どもたちも私を一人の先生と認めてくれ、実習最終日には「先生明日も来てくれるよね」と悲しんでくれるようになりました。先生方にも本当の保育士のようなうだった、このまま就職して欲しいと言っていた、次第に「保育士になりたい」という目標を持つことができました。保育士の先輩方や子どもたちとの関わりの中には教科書では学べないことがたくさんあり、今後の糧となる経験だったと思います。

私は四月から、保育士または幼稚園教諭として働きます。これまでの学びを活かし、常に向上心を抱きながら、いつも子ども達の笑顔と笑い声にあふれる保育室にしていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

大学生活を振り返って

健康スポーツ科学科 松浦 洋次



「この大学に入って良かった」と、大学生活4年間を振り返ると、この言葉が思い浮かびます。入学当初はこの大学で何がしたいのか、具体的な目標や夢が決まらずに、何気ない日々を過ごすばかりでした。しかし、「教員免許取得」が、私自身の大きな転機となりました。先生方に手厚い指導をしていただき、そのありがたみを改めて自覚することで、自分の将来の夢を考え直すきっかけとなりました。

教員を目指していく上で様々な経験を培うことができました。最も刺激を受けたのは、「周りの人」の存在でした。学科問わず同級生はもちろんのこと、先輩方、後輩、そして先生方の影響力は偉大で、自分が持っていない個性や考え、価値観などに直に触れることで私自身の未熟さや立ち位置を再確認することができました。

当然ながら、今までは「学習者」でしたが、次は「教育者」として、子どもたちを相手に授業をする立場に変わりますので生半可な言動はできません。しかし、この4年間で得た知識や技術をフル活用し、福山平成大学の看板を背負い、立派な教育者になりたいと思います。

最後に、在学中の皆様。大学生活はあっという間に過ぎていきます。何をするか、何を学ぶのか、そしてどのような生活にしたいのか、計画性を持つつつ大学生活を有意義なものにしてください。そして、支え合える「仲間」に出逢い、共に競い合える「ライバル」を作ってください。それが自分の刺激となり、力となり、歩み続ける原動力となります。大学で得た教訓を胸に、私も学び続ける努力をしていきます。4年間、本当にありがとうございました。





平成30年度 卒業者数

学 部	学 科	卒業者数
経 営 学 部	経 営 学 科	28名
福 祉 健 康 学 部	福 祉 学 科	27名
	こ ど も 学 科	34名
	健 康 ス ポ ー ツ 科 学 科	94名
看 護 学 部	看 護 学 科	81名
計		264名

研 究 科	専 攻	修了者数
ス ポ ー ツ 健 康 科 学 研 究 科	ス ポ ー ツ 健 康 科 学 専 攻	2名
看 護 学 研 究 科	看 護 学 専 攻	3名
計		5名

専 攻 科	修了者数
助 産 学 専 攻 科	9名

合 計	278名
-----	------



平成30年度 学生表彰者一覧

このたび、「学生表彰」として学長賞が第22回学位記授与式において次の学生に、坪井学長から表彰状と副賞が手渡されました。

学長賞は「学業部門」において、特に優秀な成績を修めた学生に授与されるもので、今年度は、5名が表彰されました。

学 長 賞

経営学科	小 川 奈々
福祉学科	田 川 みなみ
こども学科	多 木 杏奈
健康スポーツ科学科	宇 治 田 芽衣
看護学科	小 松 加奈

編 集 福山平成大学広報委員会(学報作成部会)

発 行 福山平成大学

発行日 2019年3月21日

福山平成大学

〒720-0001 広島県福山市御幸町上岩成正戸117-1

TEL 084-972-5001(代表) FAX 084-972-7771 <http://www.heisei-u.ac.jp/>